

盛岡市産学官連携研究センターの整備

産学官連携推進へ研究センター

盛岡市、岩手大に整備

開07年度 所 豊富な知的財産活用

谷藤裕明盛岡市長と平山健一岩手大学長は三十一日、市役所で記者会見し、同市上田の岩手大キャンパス内に産学官の連携推進を図るための研究センターを建設する、と発表した。事業主体は盛岡市で、岩手大から敷地を借りて施設を建設し運営する計画。「岩手大の豊富な知的財産を生かし

ながら、起業の支援や企業立地の促進を図りたい」としている。計画では、岩手大が一九九三年に開設した地域連携推進センターの隣接地に「盛岡市産学官連携研究センター」（仮称）を建設する。四階建ての建物に企業が研究開発をする部屋二十室と、学生らがスタッフと相談でき

るブースなどを備える。二〇〇六年八月に本体工事に着手し、〇七年度内の開所を目指す。事業費は約六億一千万円。国立大の中に自治体が産学官連携施設を建設するのは、信州大に続いて国内二番目という。

岩手大の地域連携推進センターには現在、地元企業を中心に十二社が入居中。大学などから支援の専門スタッフも五十四人配置され、共同研究が活発に行われている。新施設は同センターの機能を増強する形になる。

会見で谷藤市長は「盛岡市が将来にわたって自立できる街になるために、地域産業の活性化につながる拠点施設にした」と語った。平山学長は「現在のセンターは手狭になっていた。新施設はありがたい。首都圏からの企業誘致につながる」と話した。



産学官連携研究センターの建設に向けて協力を確認し合った谷藤市長（左）と平山学長